

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3270101581
法人名	株式会社 やつかの郷
事業所名	グループホーム やつかの郷
所在地 (電話番号)	鳥根県松江市八束町1025番地9 (電 話)0852-76-3522
評価機関名	保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNTビル111号
訪問調査日	平成21年3月25日

【情報提供票より】(平成21年 3月17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤	5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6, 17

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建て	1 階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (175000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	220 円	昼食	560 円
	夕食	560 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	13 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名	
要介護3	5 名	要介護4	2 名	
要介護5	3 名	要支援2	1 名	
年齢	平均 85.5 歳	最低	70 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	吉岡医院 小須賀歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかで静かな環境の場所に建てたれたグループホームである。中庭には野菜が栽培され、新鮮な魚を職員が調理して食べたり、和気あいあいに一日をゆったりと過ごせる家庭的な事業所である。みんなで暖かく高齢者を見守り、できるだけ本人の意思を尊重して生活できるように、24時間連絡体制も整備され安心して生活できるように管理者・職員がきめ細かい配慮をしていた。

24

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	人材育成に関しては、年間のプログラムを作成してカリキュラムで育成をしている。地域との関係に関しては、開かれたグループホームになるように運営に関して話し合い、取り組みを始めている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議を開き具体的に改善できることを決裁文書にして回覧され、今後は自己評価を基に見直しを行い、改善に取り組む状況にしていた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議で、外部評価の報告がなされ、地域の方や利用者の家族も参加してサービスの向上に努めているが、今後は集まる回数を増やして、地域の方との交流(行事への参加)を深める取り組みを計画されている。
重点項目 ④	家族との信頼関係を大事にして、意見を聞き、運営推進会議にも参加を促してできるだけ何でも言える場を提供している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育所の園児が来たり、町内のカラオケ大会に参加、ぼたん祭りには職員が出展して交流に努めていることが確認できた。開かれグループホームを念頭にボランティアの受け入れや地域の人が気楽に交流できる場を提供して、八束町での展開が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「穏やかで楽しい、尊厳ある生活を保障しますその人らしい、当たり前な生活を保障します」との地域密着の理念を掲示して支援できるよう職員全員が周知している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所・サービスステーションに掲示して申し送りや、ミーティングで確認するようにしている。新職員には管理者や勤務になれた職員が説明して理念の共有が出来るよう指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園児の来苑や施設長が地域ののカラオケ大会に参加することもある。民生委員は推進会議に参加をされる。地域の方はグループホームの理解があまりない。時々地域の方から取れた魚を頂き食事の材料として使用される。地域の中学生の職場体験があり交流につながっている。年末には窓拭きのボランティアがあ	○	地域の人が花見に行く時などに、ボランティアで参加するような機会を設けたり、入所者の家族以外も事業所を知って交流する工夫が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	リーダーを中心に自己評価の意義を説明し理解をしている前回の評価結果についても職員会議で業務改善等について取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回実施。地域の方にサービス内容、外部評価の説明、離苑者の対応方法や連絡体制の説明等報告が行われた。利用者、家族、地域の代表者市町村の職員、地域包括支援センター職員の参加も確認できた。	○	次年度は回数を増やしていき地域や市町村等と連携を多く持ち意見を話し合いをしたいと意欲的であった。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険以外でも障害福祉に関して、市町村に問い合わせ利用者のサービスの向上に努めていた。	○	施設側から出かけていだけでなく普段の生活を見ていただけるよう働きかけを希望する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	やつかのいまを年2回便りで報告している。健康状態等に変化があったときは電話で連絡、報告している。家族の面会時に状況報告している。職員の異動は家族、利用者に報告していない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見が直接あった時は朝のミーティングなどで内容を話し合い改善、支援に反映している。施設長に直接話されたときも職員でミーティングがおこなわれる。玄関先に意見箱を設置されているが意見などはない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者、家族に報告していない。2ユニットの職員が行き来しているのでなじみがあり利用者には影響はないがいままで職員が配置されたとき紹介がないときもあったので今後、担当職員より請求書送付の月便りのなかで紹介をしていくようにすると管理者が話された。	○	朝の申し送りでは連絡しているが、文章(お便り・ポスター等)で伝える工夫が望まれる。
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画は立てられていました。内部研修を行い職員の質の向上に努めておられました。		認知症の研修など外部研修にも職員交代で参加を望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加しておられ年3～5回の交流があり、参加されている。	○	管理者だけでなく勤務調整などされ交流や勉強会などに他職員も参加できる体制をされたい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の家族見学、サービスの体験をしていただき雰囲気や職員と話などをしながら安心して利用できる体制がある。病院からの問い合わせにも内容等理解していただくよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作り、配膳の手伝い等できる方には手伝ってもらっている。会話などをしながら支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中に本人のしたいことをできるだけ聞くように努め対応していた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時やケアプラン作成時に本人や家族の意向、思いを聞き、サービス担当者会議も開催され本人、家族、職員参加で課題や目的がはなされ意向に沿ってプラン作成がされていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1回行われていた。更新時や病院退院時など見直しが必要なときは状態に応じたケアプランが作成されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じ、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設の協力医院の往診、受診の付き添いを行っている。在宅からの主治医や松江市内の医療機関には家族の付き添いで受信が行われている。新入所者の家族は宿泊される方もおられる。最近は家族の宿泊はあまりない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医に受診ができる。施設の協力医の受診、往診もできる。希望時には訪問歯科の利用ができる。看護師がいないので適切な医療が受けられるよう協力医と連携を図っている。緊急時は協力医、救急車の対応となる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師がいないので重度化やターミナルの利用者は家族やかかりつけ医、施設の協力医と相談しながら医療機関の入院の対応を行う。家族とは話しているが、施設での対応にも限界があり、今後終末期をどう関わるかを検討しているところである。	○	ホームでできること、できないことを明確に家族には伝え、施設の方針が確立されるのが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護の説明を行い同意を得ている。会話、排泄、入浴の支援でプライバシーに配慮した関わりをされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の一日のながれにそって過ごしておられるが状況に合わせた支援も提供されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事ができる利用者は盛り付け、配膳の一部を手助けしてもらいながら行っておられ、利用者の表情もほほえましい様子であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴となっているが、希望時、拒否などは状況にあわせて入浴ができる体制がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	男性利用者は希望があればカラオケ、ぬり絵など好きなことができる支援がある。食事の準備や盛り付けなど簡単な家事を手伝ってもらい役割や楽しみの支援が行われていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は中庭を散歩したりする。買い物などは地域的に不便であり出かけることが難しい。必要なものや嗜好品は家族や職員が購入している。境港市のスーパーへ時々買い物に職員と出かけることができる。家族と買い物に出かけられたり、食事をされる利用者もいる。ドライブや花見など利用者と相談しながら出かけて	○	季節が良くなり中庭で談話が出来たり、近辺の散歩などに出かけられるよう支援を期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中鍵をかけていない。居室も鍵をかけていない。利用者の状態把握をしながら安全なケアを行っている。出掛けるときは、職員が付き添いをしていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	備蓄あり。ペットボトルの水、食材3～4日分備蓄対応あり。災害用バッグも用意している。		地域の方の協力が得られるよう検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりバランスの取れた食事が提供されている。パン食のとき食事制限がない方には追加で食べることができる。食事量、水分量がチェックされ記録されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を生けたり、季節の飾りが取り入れてあった。居間のソファを時々過ごしやすい位置に変更するなど工夫を行っている。臭いや不快な音は感じられなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で飼っていた犬の写真が飾ってあったり、職員と共に整理整頓がされ生活がしやすい居室作りがされていた。趣味の尺八を持参され、気分の良いときには尺八を吹かれるなど趣味を活かせる支援もされていた。		